

関係機関・団体長  
病害虫防除員  
農薬管理指導士 } 様

山口県病害虫防除所長

## 水稻の斑点米カメムシ類（アカシカスミカメ、クモヘリカメムシ等）の発生状況と防除対策 （技術資料第3号）について

このことについて、下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

### 記

#### 1 発生状況

- (1) 7月9日～11日の雑草地等での20回すくい取り調査では、すくい取り虫数は79.9頭（平年47.4頭）で平年に比べやや多かった。  
特に、斑点米発生の主原因となるアカシカスミカメは53.6頭（平年22.0頭）で平年に比べ多く、クモヘリカメムシは13.8頭（平年12.0頭）で平年並みであった（図1）。
- (2) 県内4か所の予察灯における6月1日～7月15日の誘殺数は515頭（平年365.1頭）で平年並みであった（図2）。

#### 2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域  
（主に8月上旬までに出穂する水稻を作付けしている地域）
- (2) 発生時期 出穂期以降
- (3) 発生程度 やや多

#### 3 防除対策（防除時期等）

- (1) 畦畔、休耕地等の草刈り  
カメムシ類のほ場への移動を避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以降はイネ科雑草（エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等）の穂が出ないように管理する。
- (2) 薬剤防除  
ア 粉剤、液剤等で防除する場合、穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。  
イ 薬剤を2回散布した後もほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は、さらに7日後に追加防除を実施する。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 本年の水稻の生育は概ね平年並みであるが、ほ場の出穂時期をよく確認し草刈り時期及び防除時期を逃さないようにする。
- (2) 周囲よりも出穂の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のほ場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。
- (3) カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (4) 薬剤防除で粒剤を使用する場合の散布時期は出穂期～穂揃期なので、遅れないようにする。
- (5) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。

#### （参考）用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日  
穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日

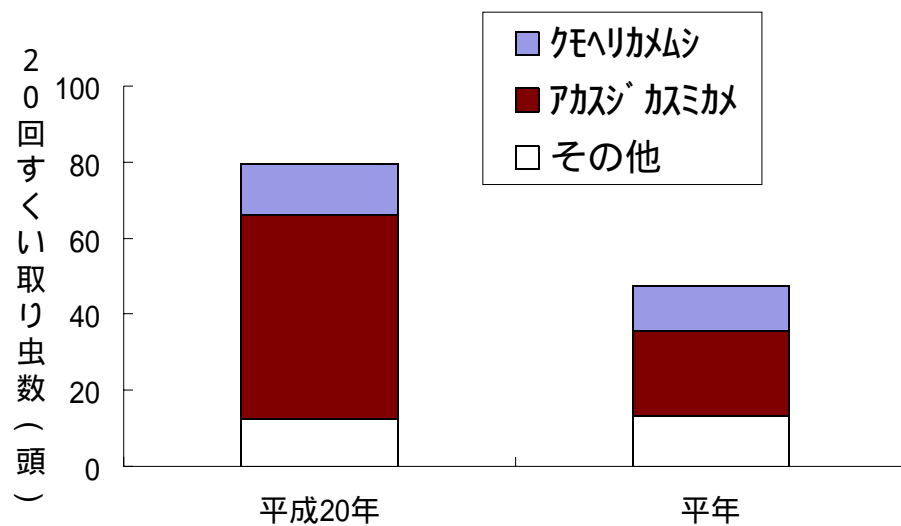


図1 雑草地でのすくい取り調査結果 (7月9日～11日)

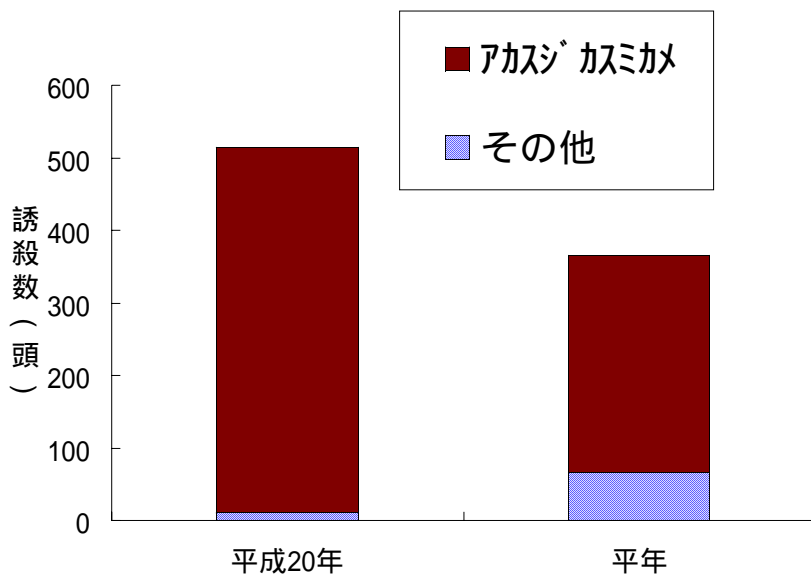


図2 県内4か所の予察灯における誘殺数 (6月1日～7月15日)



写真1 クモヘリカメムシ



写真2 アカスジカスミカメ